

公益財団法人 大阪科学振興協会

平成29年度事業報告及び決算の承認について

＜平成29年度事業報告の概要について＞

大阪市による平成31年度からの市立博物館施設の地方独法化方針を受けて、平成29年度事業計画の基本方針で、「29・30年度においては、科学館のミッションを実現するための事業基盤を最大限拡充する」ことを定めたが、その1年目となる29年度では、地方独法化による新たな出発にむけての基礎を築く取り組みに力を入れてきた。

展示事業では、新たに8点の展示物を製作・公開するとともに、4階展示場の調査を実施し、30年度の展示改装の準備を整えた。また、近年増加している外国人来館者へ適切に対応するための多言語化も実施し、80点の展示物への英語解説文追加のほか、ホームページの多言語化、展示解説動画32点への英語字幕付加などを、文化庁の補助金を活用して行った。

プラネタリウム事業では、ベストセラーとなった佐藤勝彦氏の原作によるオリジナル番組を自主制作するとともに、プラネタリウム投影学芸員への技術研修を行うなど事業の基礎固めを積極的に行った。

国際交流によるグローバルな企画実現に向けては、先年連携実施で合意したドイツ博物館に学芸員を長期派遣し、各種交流や、将来当館で開催予定のドイツ博物館資料を用いた展覧会にむけての資料調査を実施した。

マーケティング、プロモーションについては、デジタルマーケティングやチケット発券データ解析により、来場者属性や来場シチュエーション、来場動線等を分析し、お客様ニーズに合致したイベントやサービスの検討実施やプロモーションの強化を図った。

また、隣接する国立国際美術館が開催した「バベルの塔展」との観覧料相互割引や、大阪市主催「大阪クラシック」の科学館開催、当館企画展示「にじのせかい」のキッズプラザでの開催など、近隣の他団体と幅広い地域連携を実施した。

これら29年度の取り組みにより、当協会最後の30年度における科学館事業基盤の拡充事業（重点予算6億円）につなげていくベースができたと考えている。

平成29年度の当協会の観覧者数については、プラネタリウムが約16,000人減少したものの、展示場が約4,000人増加し、総観覧者数は720,032人となった。前年度に比べて1.6%減であるが、最近3年間平均とほぼ同等であった。観覧者減少の主要因は、台風による2回の途中休館およびプラネタリウム個人客の大人と学生が大幅に減少したことによるものである。

また、単価が高い大人と学生が大幅に減少したことにより、観覧料収入は観覧者数以上に減少し、前年度に比べ4.1%減の約1億8,000万円となった。（表1、表2参照）

これらの結果を真摯に受け止め、学芸員のさらなる資質向上に取り組み、来館者の動向やニーズを分析、把握した上で、より魅力的なサービスや活動を開発・実施していく所存である。

なお、平成29年度の3つの経営目標については、「入館者数」「自主事業収入額」については上記のとおり若干及ばなかったが、「連携型事業件数」は表3に示すとおり目標を上回った。

表 1 平成 29 年度観覧者数

	H29 実績	H28 実績	対前年比
展示場	379,021	375,376	101.0
プラネタリウム	341,011	356,694	95.6
合計	720,032	732,070	98.4

表 2 平成 29 年度観覧料収入 (千円)

	H29 実績	H28 実績	対前年比
展示場	54,537	54,471	100.1
プラネタリウム	130,816	138,735	94.3
合計	185,353	193,206	95.9

表 3 経営目標と実績 (平成 29 年度)

	観覧者数	自主事業等による収入金額	(公財)大阪市博物館協会等との連携型事業件数
目標	735,000 人	23,100 万円	7 件
実績	720,032 人	22,500 万円	9 件

平成29年度 事業報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

I. 公益目的事業

1. 展示場事業

(1) 常設展示の公開・管理

「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、214点の展示品を主に1～4階の常設展示場で公開した。

展示物については、入場者増加に伴うハンズオン展示の故障増大という科学館特有の問題と経年劣化、陳腐化に対応するため、日常のメンテナンスに努めるとともに、今年度は展示場4階において6点の新規製作展示物と1点の所蔵資料を新たに常設公開した。一方、老朽化した5点の展示を撤去し、展示場の充実化を実施した。

また、文化庁から文化芸術振興費補助金の補助を受けて80点の展示物に英語解説文を付加し、近年増加している外国人来館者に対する多言語化対応を行った。

加えて小学校団体の展示利用を支援するために、学習プログラムを引率者へ配布した。

(2) 企画展示

一つのテーマに焦点を当て、数多くの資料を通じて紹介する企画展を、今年度は以下の4つ実施した。

①「石は地球のワンダー」：北川鉱物コレクション、金澤化石コレクションの中から、様々な形の結晶を持つ鉱物や、アンモナイトなどの化石を展示し、地球の営みや生物の進化を紹介した。自然史博物館との共催による実施。(28年度より継続実施)

②「電気科学館と日本のプラネタリウムの黎明期」：平成29年は、大阪市立科学館の前身である大阪市立電気科学館の開館80周年にあたることから、その歴史や日本のプラネタリウム導入初期の様子を、新出資料を交えて紹介した。

③「大阪市立科学館資料で見るノーベル賞展」：湯川秀樹氏の自筆原稿をはじめ、当館が所蔵するノーベル賞に関連する資料を展示し、その資料や研究内容について紹介した。加えて学芸員によるギャラリートークを17回実施し普及をはかった。

④「にじのせかい」：幼児を対象とした企画展で、虹に関する現象やモノを通して自由に遊びながら試行錯誤する中で、思考力や探究心を育むことを目指した。

(3) 展示解説ボランティアによる展示案内

展示場にて、案内や展示品解説、実験演示等を行った。また、登録者が一斉に参加してガイドを行う「サイエンスガイドの日」や「電気記念日協賛事業によるスペシャルイベント」を実施した。
登録者数：56名、活動延人数：1,517人、指導員：5名

(4) サイエンスショーの実施

学芸員を中心に1日4回を原則に1回30分の実験ショーを3ヶ月毎にテーマを変えて行った。実施回数：1,039回、見学者数：71,867人

(5) エキストラ実験ショーの実施

サイエンスショーとは異なる実験ショーをボランティアが演じた。実施回数：403回、見学者数：15,009人。

2. プラネタリウム事業

1日2番組合計7回のプラネタリウム一般投影を基本に行った。この2番組のうちの一つは3ヶ月毎にテーマが変わる学芸員等による生解説で行うもの(一般投影A)、もう一つは全天周映像を組み込

んだ番組である（一般投影 B）。今年度は前者 5 番組、後者 5 番組を投影した。後者のうち、「眠れなくなる宇宙のはなし」は今年度製作したオリジナル番組で、同名の書籍を著者の協力も受けて映像化したものである。その他、当館学芸員が製作したオリジナルの番組は他館への配給を実施しており、今年度は 3 作品を国内 4 施設に配給した。

また、投影担当者を対象としたアナウンス講座、投影研修を実施し、投影の質の向上を通じた科学館の魅力増大を目指した。

(1) 一般投影 A

「今夜の星空」の解説に加え、学芸員等による生解説を基本スタイルとして投影を行った。投影回数：1,129 回 見学者数：157,509 人

(2) 一般投影 B

全天周デジタル映像作品をテーマとして、学芸スタッフ等による生解説との 2 部構成で投影を行った。投影回数：666 回 見学者数：113,011 人

(3) 学習投影

学校団体専用の学習用プログラム。見学校：292 校、投影回数：107 回、見学者数：21,357 人

(4) 幼児投影

学芸員による生解説で実施している。テーマは「ほしのおはなし」。それぞれの季節に見える星空や、星座や天体の話題を紹介した。投影回数：49 回、見学者数：13,590 人

(5) ファミリータイム

幼児から小学校低学年までの子供連れの家族向けの内容で、好評につき今年度は学休期間の投影も加え、回数を増やした。投影回数：165 回、見学者数：34,981 人

(6) スペシャルナイト

天文学の普及と市民の生涯学習に資することを目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を実施した。実施回数：3 回、見学者数：1,155 人

3. 資料の収集及び保管、調査研究事業

(1) 資料の収集・保管

貯水型雨量計等の寄贈・寄託資料 86 点、購入・製作資料 21 点を収集した。また 90 点の資料を借用した。また、所蔵資料 3 点を貸し出した。

(2) 調査研究

○中之島科学研究所

学芸員と外部研究員 6 名が情報交換を行い、研究活動を推進した。実績は下のとおり。

- ・第 8 回「全国理工系学芸員展示研究大会」を開催し、他館の学芸員と意見交換を行った。
- ・毎月 1 回のコロキウムにおいて、研究員が市民公開の場で研究報告を行った。今年度は 11 回実施し、合計 296 名が参加した。

○ドイツ博物館資料調査

28 年度、当館とドイツ連邦共和国のドイツ博物館との間で、相互交流を行うこと、また当館においてドイツ博物館資料を活用した企画展を実施することの基本合意を行った。それに基づいて、6～7月に学芸員 1 名を長期派遣し、企画展に向けた資料調査を行った。

4. 教育普及啓発事業

(1) 科学教室、講演会、教員研修など

日本物理教育学会近畿支部などとの共催による「青少年のための科学の祭典第 27 回大阪大会サイエンスフェスタ」が 2 日間で延べ 22,000 人を集めるなど、43 件（内他組織の協力等を得たも

の 26 件)の各種事業を実施した。参加者は自由参加を除いて 5,538 人(組)であった。

(2) 科学デモンストレーター研修

実験ショーの人材養成を目的に、1 年間の研修を行った。研修生：2 名 修了者：2 名

(3) 天体観望会

市民対象の天体観望会を、ボランティアの天体観望会指導員の協力のもとに実施した。

実施回数：8 回 参加者数：615 人

(4) ジュニア科学クラブ

小学校 5, 6 年生が毎月 1 回科学館に集合し、プラネタリウム見学や実験教室等での活動に取り組んだ。会員数：153 人

(5) アウトリーチ事業

モバイルプラネタリウム、出張サイエンスショー、特別講演会など合計 30 件(自由参加を除く参加者数 4,013 人)を実施した。

(6) モバイルプラネタリウム解説研修講座

モバイルプラネタリウムの投影解説を行う人材養成を目的に、1 年間の研修を行った。

受講生：3 名 修了者 3 名。

5. 建物・設備等に関する管理運営事業

科学館の土地、建物、設備等の維持・管理及び運営を適正に行った。

当協会の専門性の高い技術職員が、法定点検など各種設備点検を確実に行うとともに、設備故障を未然に防ぐ観点から、日々、工夫を凝らして巡回を行うなど、建物や設備の安全確保のための活動を展開した。

6. 情報発信及び広報・宣伝事業

科学館ならびに科学と科学技術の普及啓発のため、ホームページの充実やツイッターや YouTube などの SNS、メディアを活用した多彩な手法による情報発信を行うことで広報・宣伝に努めた。また、文化庁から文化芸術振興費補助金の補助を受け、ホームページの多言語化、YouTube 上で公開している展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」への英語字幕付加(32 件)を実施した。

II. 収益事業

売店事業

ミュージアムショップでは、トレンドやお客様ニーズに合致した品揃えをするとともに、当協会の学芸員が作成したミニブックをはじめ、こよみハンドブックなどの科学書籍、科学雑誌、オリジナルグッズ等の商品の販売を行った結果、来場者は減少したにもかかわらず、昨年度に比べ 3.8% 増、約 3,100 万円の売上となった。また、科学館西側屋外テント内に、自動販売機を設置し、清涼飲料水等の販売を行った。